



国文
特別図書
1965年度

国文
24L
167
43



40. 8. 26

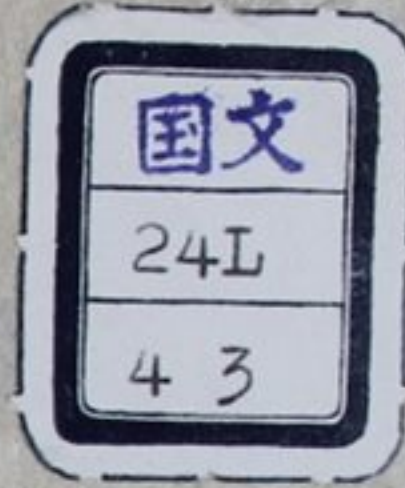
7306531

京山先生者京傳翁之令弟也。書鐵筆之技
 以為業。性
 自編一出人
 數十部。年多於一年。今春本舖新所鑄先生
 真本實第一之妙撰也。四方君子一錫技覽
 以惠嘉評甚幸甚幸

江戸

書肆

鴻堂欽識



義仲の嫡子
能若丸



○ 杖父の庄司二郎
重忠の妻
奈喜野葉

堀川百首
ぬとの
うらの
乃山
入るる
のし
名



山城國黒姫山の山賊鬼夜叉
實へ木曾義仲が四天王の随一
今井四郎兼平が一子同苗

金王丸
兼友

而此乃平中
京山能十段一

風乃樹の
吹ゆに
うきよの
まへーも
うきよの
うき世の中
人をもつた
あき浅き川の
うきまおの
うきまの波

うらゆせまら
山乃松の嵐
をたよれ夢
うきまおの
うきまの波
うき世の中
人をもつた
あき浅き川の
うきまおの
うきまの波

右三浦屋
小幡忠作



浪花の二郎作
實の曾盛堂
今井六郎兼行

大破の
小車
大車
東の
奥の
小幡忠作



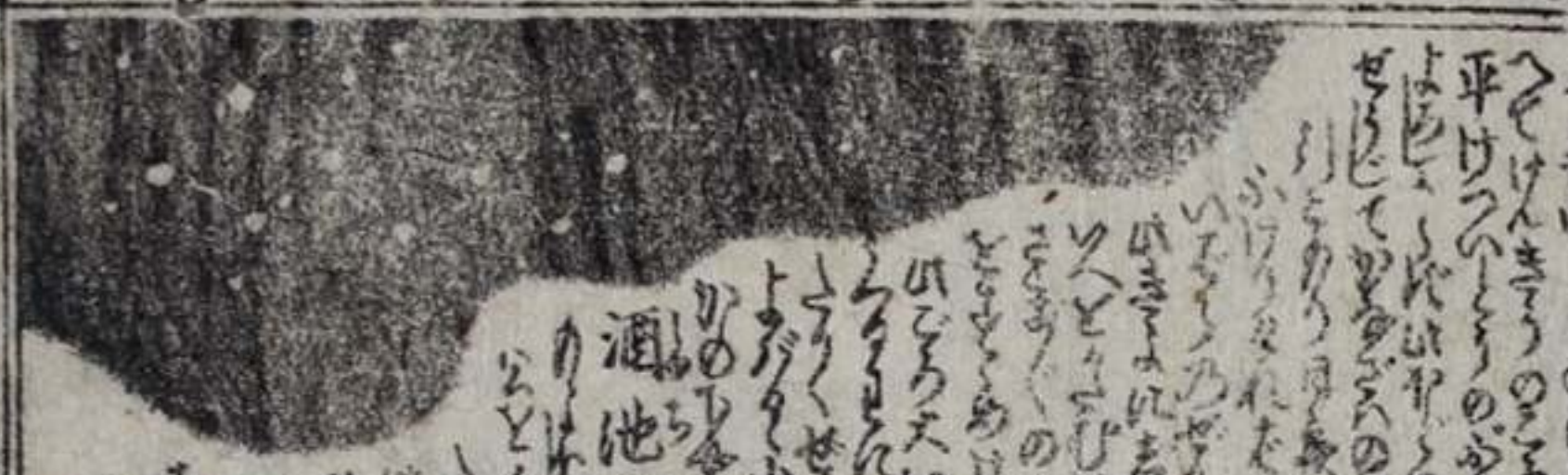
Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, covering the majority of both pages. The text is arranged in approximately 20 horizontal lines per page.

備前のそへ他
共妻のより
戻加馬故郷の錦繪
山東京山

源詞 此の巻の終り



全井 四郎 兼平 栗津 源 打 死 崩 の



今井原のまはりの赤川のほとりには山々のそとを
平けるこのさきわたりはなんとも静かなるが
よはひはせわしなくわたりは静かなるが
せわしなくわたりは静かなるが

ひまはつたをまはりに
いさよふておれを
さかすまののりか
ひまはつたをまはりに
いさよふておれを
さかすまののりか



○則頼公の家臣
此村大江之助
はる



酒池内村乃のまはりを

ゆき月ぬどん本將より仲ひとよむ
そののけしきわひよりしるしを
のりまらへてしるしを
まらへてしるしを
まらへてしるしを
まらへてしるしを



此のまはりのまはりを
まはりのまはりを
まはりのまはりを
まはりのまはりを



酒池
肉林
之
音



おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから



おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

おとこ
の
まへ
の
つれ
づから
おとこ
の
まへ
の
つれ
づから

此の書は... 昔の... 徳川... 小車...
 ...
 ...
 ...
 ...



小車と
 ...
 ...

此の書は... 徳川... 小車...
 ...
 ...



...
 ...



目とおどろ
ろくをえり
まをえんす
まをえんす
まをえんす

おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ

江
車

おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ



おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ

おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ

おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ
おののつ

辰馬番後編







あはれせい
きんぎょ
こまはら
おのれ
あはれせい
きんぎょ
こまはら
おのれ

あはれせい
きんぎょ
こまはら
おのれ
あはれせい
きんぎょ
こまはら
おのれ



あはれせい
きんぎょ
こまはら
おのれ
あはれせい
きんぎょ
こまはら
おのれ



主人のまへ
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや

ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや

ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや



ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや

ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや

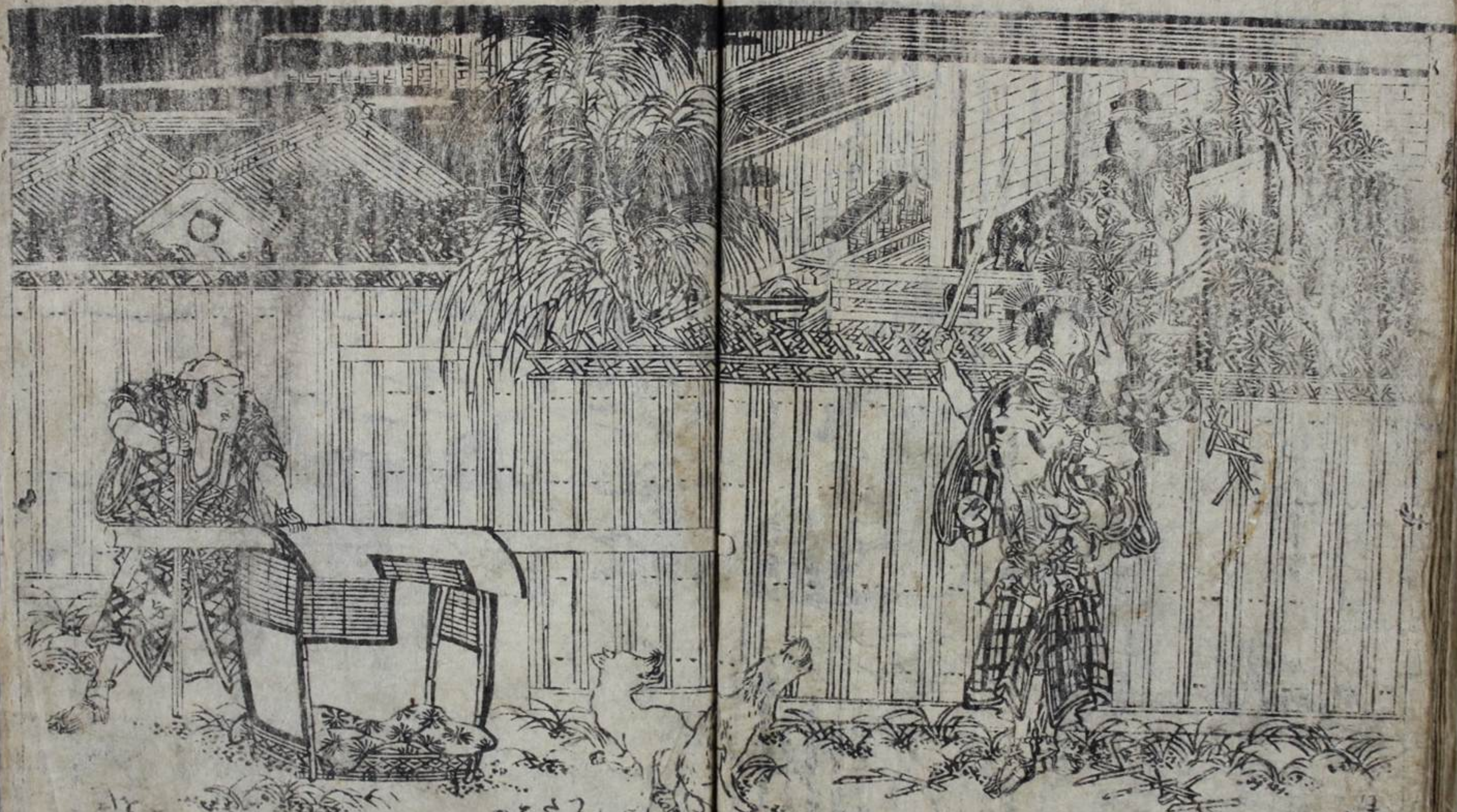
ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや
 ちとけりけりや



とめりありの...
しるねちつけの...
いんぐい...
おやいぬ...
ごやう...
いんぐ...
とめりあり...
しるねちつけ...
いんぐい...
おやいぬ...
ごやう...
いんぐ...
とめりあり...
しるねちつけ...
いんぐい...
おやいぬ...
ごやう...
いんぐ...



まの...
その...
仲...
せん...
ま...
まの...
その...
仲...
せん...
ま...



此の物語は
 昔の事なり
 今も語り
 傳へるなり
 其の事
 如何なる
 事なるか
 其の事
 如何なる
 事なるか
 其の事
 如何なる
 事なるか

此の物語は
 昔の事なり
 今も語り
 傳へるなり
 其の事
 如何なる
 事なるか
 其の事
 如何なる
 事なるか
 其の事
 如何なる
 事なるか



「あつちのやうな
 火を吐くやうな
 龍のやうな
 ものがある
 のか」と
 尋ねた
 女は
 「あつちの
 やうな
 火を吐く
 やうな
 龍のやう
 なもの
 があるの
 か」と
 尋ねた



「あつちのやうな
 火を吐くやうな
 龍のやうな
 ものがある
 のか」と
 尋ねた
 女は
 「あつちの
 やうな
 火を吐く
 やうな
 龍のやう
 なもの
 があるの
 か」と
 尋ねた

「あつちのやうな
 火を吐くやうな
 龍のやうな
 ものがある
 のか」と
 尋ねた
 女は
 「あつちの
 やうな
 火を吐く
 やうな
 龍のやう
 なもの
 があるの
 か」と
 尋ねた




「あつちのやうな
 火を吐くやうな
 龍のやうな
 ものがある
 のか」と
 尋ねた
 女は
 「あつちの
 やうな
 火を吐く
 やうな
 龍のやう
 なもの
 があるの
 か」と
 尋ねた

「あつちのやうな
 火を吐くやうな
 龍のやうな
 ものがある
 のか」と
 尋ねた
 女は
 「あつちの
 やうな
 火を吐く
 やうな
 龍のやう
 なもの
 があるの
 か」と
 尋ねた

「あつちのやうな
 火を吐くやうな
 龍のやうな
 ものがある
 のか」と
 尋ねた
 女は
 「あつちの
 やうな
 火を吐く
 やうな
 龍のやう
 なもの
 があるの
 か」と
 尋ねた



文化十歳癸酉春新版辨火目錄

山東京山作 

安達原水之姿見全六冊
山東京傳作
 海陸西國往來 全三冊
十返舎一九作

東与四郎
 辰駕籠故郷錦繪全六冊
山東京山作
 昔大山人 全三冊
振鷺亭作

管原流清書草紙 全六冊
十返舎一九作
 箴本浮世繪抄 全三冊
振鷺亭作

皿屋鋪浮名漆著全六冊
曲亭馬琴作
 昔語本 全三冊
古今亭三鳥作

鳥居清峯画

歌川國貞画

いんぎんはあけ...
 文化十歳...
 辨火...
 癸酉春...
 新版...
 辨火...
 目錄...
 全六冊...
 全三冊...
 全六冊...
 全三冊...
 全六冊...
 全三冊...
 全六冊...
 全三冊...

